

令和6年度事業について

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens （略称 JABG）
- 2：設立等 昭和22年5月1日任意団体として発足
昭和41年4月11日社団法人になる
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展
と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊
かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
 公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献
 するための調査及び研究
 公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外植物事情調査

2024年12月3日～12月12日の日程でニュージーランドの植物園・自然公園などの事情調査を実施した。調査隊は藤川和美隊長（高知県立牧野植物園）と他6名で構成され、現地在住の馬場由美子氏とキャメロン・キルガール氏の協力を頂いた。参加者負担金は340千円。調査先として、オークランド博物館・オークランド植物園・ワイタケレ森林保護区・プレオラ森林保護区・トンガリロ自然公園などをレンタカーで移動し、各所で自生地内外におけるニュージーランド固有種の植物やマキ科やナンキョクブナ属、木生シダ類の多様性、森林保全の状況などを調査した。

2. 植物園概要

4月に調査を開始し、4月在籍の116園にメールで記入用紙を送付した。6月までに54園から回答と協会ホームページ等の広報で使用可能な写真を収集した。植物園概要データは集計中である。

3. 国際活動

国際会議への協会派遣は実施なし

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

11月8日に種苗交換植物リストと絶滅危惧植物種の種苗交換リストの募集案内を正会員に通知し、各園から集まったリスト原稿をとりまとめ、1月、2月（追加版）に配布した。（提供園数22園、分譲可能品目数216）

2. 植物多様性保全事業

①植物多様性保全2030年目標の策定（第5回臨時理事会承認）

「2030年までに日本産絶滅危惧維管束植物1,200種類（対象種の約68%）について自生地情報を持つ個体を生息域外保全する」など、2030年に向けての保全に関する活動目標を定めた。

②絶滅危惧植物の保全手法、種子保存・利用方針の検討

＊環境省連携事業内での実施したもの

- ・超低温での種子保存試験
- ・保全手法の構築に向けたラン科、カンアオイ属の種子保存条件の検討
- ・種子管理データベースのデータ項目を決定しデータ整理作業を実施
- ・「第3回種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム」

＊種子繁殖したサガラランについて、複数園で試行栽培を実施した

③外来植物対策

- ・新外来害虫ソテツシロカイガラムシに関する注意情報の発信
- ・BGCIの侵略的外来種に関する欧州植物園行動規範の日本語訳を協会HPに掲載
- ・外来害虫チュウゴクアミガサハゴロモに関する注意喚起チラシPDF作成。配布は令和7年度。

④植物多様性保全拠点園ネットワークの活動

- ・絶滅危惧種の特性調査と種子収集を実施

- ・種子保全拠点園（新宿御苑、沖縄美ら島財団、武田薬品工業(株)京都薬用植物園）で絶滅危惧植物の種子保存を実施
 - ・絶滅危惧植物の種苗交換について、9園から45種の提供を受けて斡旋
 - ・各拠点園の活動報告を『植物多様性保全事業年次報告2024』としてまとめ、配布
 - ・拠点園ネットワーク分科会をオンラインで開催（10月23日、12月26日）
 - ・東日本拠点園連絡会議を実施（10月28日：茨城県における種子収集および自生地調査。3月26日：第2回東日本地域植物多様性保全拠点ネットワーク会議のオンライン開催）
 - ・第5回中部植物多様性保全拠点園連絡会議を新潟県立植物園で現地開催（10月23日）
- ⑤日本植物園協会植物情報システム（データベース関連）
- ・日本植物園協会が開発・運営するデータベース等を「日本植物園協会植物情報システム」として統括し、植物情報システム委員会で維持管理する。
 - ・生息域外保全情報管理システム「植物個体管理データベース」の本格運用にむけた修正作業の実施
 - ・環境省連携事業内で、データベース研修会を熊本大学薬学部薬用植物園で現地開催（10月27日）
- ⑥絶滅危惧植物保有状況調査
- ・第5回絶滅危惧植物保有状況調査の集計完了。結果は60回大会にて報告。
- ⑦環境省との協定に基づく連携事業（会員植物園が主体の事業も記載）
- ・「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を実施
 - ・「絶滅危惧種の保全技術に係る調査検討委託業務」でサガリラン、キシシマイワヘゴ、ホソバフジボグサ、リュウキュウヒメハギの生息域外保全、野生復帰事業を実施
 - ・「生物多様性保全推進支援事業」でシリベシナズナ、ジュロウカンアオイなど国内希少種の生息域外保全を実施

3. ナショナルコレクション事業

委員会2回開催、雑誌等記事掲載、取材対応等による普及活動、第18～22号認定証授与、第2回ナショナルコレクション情報交換会、新規ナショナルコレクション審査、再認定審査などの活動を行なった。

①認定証授与（59回大会時）

第18号 「京都府立植物園のサクラ品種コレクション」 京都府立植物園（京都府）

第19号 「コノフィツム属の野生種コレクション」 須藤 浩（千葉県）

第20号 「水戸のウメコレクション」

水戸市植物公園・茨城県土木部都市局都市整備課（偕楽園）（茨城県）

第21号 「新宿御苑 日本産絶滅危惧植物コレクション」

環境省自然環境局新宿御苑管理事務所・一般財団法人国民公園協会新宿御苑（東京都）

第22号 「茅ヶ崎市氷室椿庭園 氷室氏作出ツバキコレクション」 茅ヶ崎市（神奈川県）

②審査（新規認定）

第23号 「江戸時代に作出されたクルメツツジ」 一般財団法人久留米市みどりの里づくり推進機構
久留米市世界つつじセンター（福岡県） 認定日 2025年3月6日

③更新認定の審査

第4号 「兵庫県立フラワーセンター ストレプトカーパス属コレクション」

兵庫県立フラワーセンター（兵庫県）

第5号 「兵庫県立フラワーセンター ウツボカズラ属の原種の系統保存コレクション」

兵庫県立フラワーセンター（兵庫県）

第6号 「江戸時代の奇品植物」 浜崎 大（埼玉県）

④普及活動

2025年1月15日に第2回ナショナルコレクション情報交換会としてオンラインで開催。内容はコ

レクションホルダーの報告、今後の自主的な活動と情報共有に向けての意見交換等。

⑤情報公開

- ・協会ホームページへの新規認定（18～22号）コレクションのプレスリリースを掲載
- ・協会誌59号報告記事「2023年～2024年認定日本植物園協会ナショナルコレクション」
- ・園芸文化協会「園芸文化 みんなの広場」での「貴重な植物遺産 ナショナルコレクションを観に行こう！」の記事掲載
- ・月刊誌『ど～もど～も』への取材協力及び記事掲載

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業（委託）

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成をおこなった。本事業は平成7年から継続しており、令和6年度に寄託植物として受け入れた植物数は55株、令和6年度末の保護育成管理園25園・総保護数3,115株。令和6年度寄託費3,089,016円

5. 環境省連携事業（委託）

29年度から継続して環境省より「令和6年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託し、当協会の「環境省連携事業」として実施した。業務は植物多様性保全委員会内に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の4項目である。①「国内希少野生植物種等の生息域外保全手法の検討」は23種について検討を実施、②「国内希少野生植物種等の生息域外保全」では21種の種子等を自生地または園内で採取し、生息域外保全をおこなった。①②では各10種について公開用資料を作成、十分に数がある場合は、種子を種子保存拠点園で管理した。③「種子保存に関する検討」は、超低温の種子保存施設を持つ沖縄美ら島財団に業務を再委託して実施した。④「生息域外保全情報管理システムに関する検討業務」では、オンラインデータベース維持管理・改善、研修会開催等をおこない、一部作業は俳緑生研究所に再委託した。令和6年度委託費8,020,375円

6. 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

- ・オガサワラグワの生息域外保全を実施する植物園の募集の継続

(3) 学術や文化の振興

1. 第59回大会行事

担当：水戸市植物公園

会期：令和6年5月23日（木）～25日（土）

会場：水戸市民会館（茨城県水戸市）

- ・第59回定時総会（委員会報告を含む）
- ・フォーラム「植物園と子どもの教育」
- ・開会式、表彰式（協会表彰6件）、ナショナルコレクション認定証授与式（授与5件）
- ・研究発表会（口頭発表8題、ポスター発表12題）
- ・分野別会議
- ・植物園研修：水戸市植物公園、七ツ洞公園、弘道館、水戸城大手門（2コースに分けて実施）

2. 植物研究会・技術者講習会・その他

①第1回植物研究会

テーマ「平和を伝える植物（被爆樹木等）と変化朝顔」

担当：広島市植物公園（その他会場：広島平和記念資料館および平和記念公園、広島市中央公園）

期日：令和6年8月26日（月）～27日（火）

参加者：8園11名（※台風接近により参加取り止めあり）

テーマにそって以下の講演等をおこなった。その他、被爆樹木ガイドツアー、変化朝顔展見学、広島市植物公園バックヤードツアーをおこなった

- ・講話：広島のとみどりについて 岡田 茂稔（広島市都市整備局緑化推進部緑政課）

- ・被爆樹木ガイドツアー：堀口 力（樹木医）

- ・事例紹介

- ①「広島市植物公園における朝顔栽培・展示の総括」山本 晃弘（広島市植物公園）

- ②「広島あさがお研究会の設立経緯と運営状況」梶木 敬太（広島市文化財団文化財課）

- ③「変化朝顔に魅せられて」荒谷 直（広島あさがお研究会）

- ・講演「変化朝顔の歴史と研究の最前線」仁田坂 英二（九州大学大学院理学研究院）

②第1回技術者講習会

テーマ「水生植物の植え替え」

担当：大阪公立大学附属植物園

期日：令和7年1月31日（金）

参加者：20園38名

実習「水生植物植え替えの実地見学、意見交換」

講師：竹下 博文（大阪公立大学附属植物園 技能統括主任）

座学「園の歴史と活動の中での水生植物の役割」

講師：厚井 聡（大阪公立大学理学研究科 准教授）

③第3回種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム：ラン科植物を中心に

担当：植物多様性保全委員会

会場：オンライン（Zoom ミーティング）

期日：令和6年12月20日（水）13時30分～16時30分

共催：公益社団法人日本植物園協会、環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室

（環境省連携事業の一環として開催）

参加者：事前申し込み110名、当日参加85名（講師・司会等含む）

<内容>

テーマ1 日本植物園協会の種子保存事業

「植物園－環境省連携による生息域外保全の進捗と質向上の課題」

中村 剛（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）

テーマ2 ランの種子保存と保全への利用

「ランの遺伝資源保全に向けた種子保存」平野 智也（宮崎大学農学部応用生物科学科）

「ランの無菌播種」徳原 憲（沖縄美ら島財団総合研究所）

「生息域内外におけるラン種子の菌共生発芽」蘭光 健人（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

テーマ3 環境省・市民等と連携した取り組み

「ホソバフジボグサの保全に向けた取り組み」佐藤 裕之（沖縄美ら島財団海洋博公園管理センター）

「地域協働参画によるオキナグサの保全」久原 泰雅（新潟県立植物園）

④第2回ナショナルコレクション情報交換会

担当：ナショナルコレクション委員会

期日：令和7年1月15日（水）13:30～16:00

会場：オンライン（Zoom ミーティング）

参加者：43名

テーマ：ナショナルコレクション認定制度と今後の活動

「ナショナルコレクション認定制度と今後の活動」 ナショナルコレクション委員会 倉重 祐二

第1部 コレクションの利用の実際 ホルダーからの報告

「認定コレクションの活用 富山県中央植物園サボテン・多肉植物展の開催」 須藤 浩

『中部の椿品種保全会』の取組み」 中部の椿品種保全会 佐々木 辰夫

「自然災害を乗り越えて のとキリシマツツジの保全」 のとキリシマツツジの郷 政田 成利

第2部 今後の自主的な活動と情報共有に向けて（アイデア提供と意見・情報交換）

3. 「日本植物園協会誌 第59号」

制作作業の遅れにより令和7年4月発行（A4判112ページ 480部）。特集として令和5年度に実施した「牧野富太郎・『らんまん』による植物園利用促進事業」を扱い、各植物園からの実施報告等を掲載した。59号協会誌の会員への配布と都道府県立図書館への寄贈は納品後に行なう。

4. 分野別活動

□第1回目は各分野とも59回大会開催時（水戸市）に実施した。

■第1分野（第60回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当：東北大学植物園（オンライン）

期日：12月5日（木）

参加者：10施設11名

各園での問題点報告。BGCIへの加入に関する問題や、植物園等施設から出た伐採木の活用などについて情報共有をおこなった。令和7年度開催担当は、大阪公立大学附属植物園の予定。

■第2分野（第41回国公立植物園運営会議）

担当：新潟県立植物園（会場：新潟東映ホテル、視察：片岡笑幸園・新潟県立植物園）

期日：令和6年10月22日（火）～23日（水）

参加者：17園28名

基調講演：「片岡充・園芸界の歩み」片岡 充（片岡笑幸園 園主）

運営会議テーマ：「地域と植物園の連携」

基調講演のあと、事前のアンケート調査をもとに、運営会議テーマ「地域と植物園の連携」に関する事例報告をおこない、各園の取り組みに対して質疑応答をおこなった。また、植物園で限定販売される植物コレクショングッズの紹介、地図と連動した音声ペンの紹介（植物園での活用の可能性について説明）をおこなった。令和7年度の開催担当は越前町立福井総合植物園の予定。

■第3分野

担当：東南植物楽園（視察：ビオスの丘、東南植物楽園、海洋博公園熱帯ドリームセンター）

期日：11月12日（火）～13日（水）

参加者：11園15名

会議では、令和6年度の各園活動内容、第3分野の取り組み・課題についての討議、次年度開催園の検討等をおこなった。視察では、各施設の園内・バックヤードの解説付き見学、沖縄ならではの展示の工夫や観光地での植物園の現状などを視察した。

■第4分野

期日：令和6年9月14日（土）

担当：近畿大学薬学部薬用植物園（会場：第70回日本生薬学会会場 近畿大学東大阪キャンパス）

※日本植物園協会第4分野会議、日本生薬学会での薬学教育協議会生薬学・天然物化学教科担当者会議の合同意見交換会として開催した。

参加者：20園26名

会議では、報告事項として令和 7 年度の技術者講習会の告知、各園からの情報提供等があった。審議事項では、薬草ガイドブック台所編改訂に関する内容検討と執筆協力、薬用植物栽培研究会に関する情報等について検討した。

Ⅱ：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公 2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. シンポジウム、講演会等

①第 23 回植物園シンポジウム「日本の植物園遺産 薬用植物園—植物園の誕生と歴史」

日時：令和 6 年 11 月 23 日（土）13:00～15:30

会場：エーザイ株式会社本社 5F ホール（東京都文京区）

内容：「日本の植物園ヘリテージ」として、植物園の始まりとなった薬草園をテーマに、受け継がれていく歴史と文化を伝えるシンポジウムを企画、当協会設立 60 年を祝うイベントと位置づけ、官民の薬草園の紹介や各園の取り組みを紹介し、薬草園から未来に向けての提案を行なった。シンポジウムでは、植物園の起源となる薬草園の歴史や取り組み、植物園が守ってきた薬草の背景にある日本文化を紹介した。さらにそれらに取り組む官民の各薬草園の具体的な活動例として、日本最古の植物園であり御薬園から始まった小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）、民間の薬草園から、内藤記念くすり博物館附属薬用植物園、武田薬品工業(株)京都薬用植物園、日本新薬(株)山科植物資料館について、歴史的背景や各園自慢の薬草や特色ある活動を、一般市民向けに講演・解説した。シンポジウム後も利用できる説明冊子を作成し、来場した市民と植物園関係者と、全国の植物園や関係団体を通じて、幅広い市民に配布した。

参加者：280 名

※このシンポジウムは、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成をうけて開催した。

②3 団体連携による共催事業「自然との共生フォーラム」

名称：第 3 回自然と人間との共生フォーラム「～見えないけど、そこにいる、菌～」

主催：公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（開催担当：公益社団法人日本植物園協会）

会場等：オンライン（Zoom ウェビナー） 2 月 20 日（木）14:00～16:15

後援：日本菌学会、日本変形菌研究会

◆基調講演 「菌類：見えないけど、そこにいる大切な生き物」

細矢 剛（筑波実験植物園園長・日本菌学会会長）

◆プレゼンテーション

「変形菌：「菌」と呼ばれるアメーバ」松本 淳（越前町立福井総合植物園・日本変形菌研究会）

「希少植物を支えるキノコのちから」末次 健司（神戸大学大学院理学研究科）

「農業をするアリ ハキリアリ ～菌園と共に生きる～」佐々木 愛子（多摩動物公園）

◆パネルディスカッション

ファシリテーター：佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館）

総司会進行 本荘 暁子（国民公園協会新宿御苑）

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍等

日本植物園協会第 4 分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布、植物園シンポジウム会場での販売を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関

する普及啓発を継続して行なった。「台所の薬草ガイドブック」改訂作業をおこなった。発行は令和 7 年度を予定。

2. ニュース等広報物の配布

「JABG メールニュース」としてメールで情報発信をする予定だったが、リニューアルした協会ホームページお知らせの活用で、広報等をおこなった。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル・データ貸出

生物多様性、植物の保全、教育普及等を目的としたパネル・データの活用促進や「植物園オンラインツアー」事業で公開した動画の植物園等施設への貸し出し受付、その他、ワークシート等のデータ提供等をおこなった。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」(5月4日) 事業

個々の植物園での SNS 投稿に共通ハッシュタグをつけることを周知し、広報活動を実施した。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

各植物園で継続的に活用

3. 自然災害被災地支援事業

実施なし

4. 広報大使による普及啓発活動

植物園および植物の楽しさや魅力を幅広く市民に伝え、植物園のイメージアップや知名度向上を図るため、広報大使を設置し、普及啓発活動を行う予定だったが、講師のとの調整の都合で本年度の活動は見送りとなった。

5. YouTube 公式チャンネル

YouTube に設置した公式チャンネルで、当協会事業及び植物園への理解を深め、植物園の PR の向上を図ることを目的に情報発信（植物園オンラインツアー等）を継続しておこなった。

(5) 表彰

1. 表彰

協会表彰規程に基づき選考を行い、第 59 回大会時に表彰式を行った。

【木村賞】

松本 修二 氏（姫路市立手柄山温室植物園）

手柄山温室植物園職員として、従来見落とされがちな身近にある、いわゆる「雑草」を中心に貴重な野生植物の栽培管理に尽力し、数々の絶滅危惧種の保存に貢献した。絶滅の恐れがある国内希少野生動植物種「ナギヒロハテンナンショウ」の開花に令和 4 年に成功した。手柄山温室植物園で毎年開催されている「播磨の絶滅危惧種展」では、手塩にかけて育てた希少植物を数多く展示し、多くの来園者に身近な植物が絶滅の危機にさらされていることを警鐘し、環境への配慮をアピールした。また昨年開催した「牧野富太郎ゆかりの植物展」においても 100 種類を超える生の植物展示を成功させ、来園者からも称賛され、植物園の価値を高める活動に多大に貢献してきた。他にも市内の小学校への出前講座などを実施し、環境学習などを通じて、自然の大切さ、植物の価値や楽しさなど、植物園の役割存

在意義を伝えてきた。研究においても、姫路市市花であるサギソウについての研究に取り組み、成果を報告した。このような活動は植物園功労賞に該当するものであり、特に優れた業績と認められる。

【植物園功労賞】

城山 美穂 氏（水戸市植物公園）

水戸市役所に入庁後、現在に至るまで水戸市植物公園に勤務し、園内で活動する同好会やボランティア団体の育成指導にあたるほか、令和3年にリニューアルした温室再整備等の大規模プロジェクト事業を推進し多大なる実績を残してきた。また、開園30周年を記念し、平成29年度に実施された展示・教室やボランティアの活動と、水戸市植物公園で収集している植物を「花のカルチャーの今」として紹介した冊子「水戸の植物文化 平成の花のカルチャー」の原稿作成から編集を担当し、後世に残る貴重な資料を作成したのは顕著な実績である。

中野 美央 氏（昭和薬科大学薬用植物園）

昭和薬科大学薬用植物園に19年間にわたり勤務し、その間、植栽植物の栽培管理に加え、新たな植物の導入、導入記録の管理、毎年の植栽計画、さらには一般市民向けの薬草教室の準備等を中心となって進めてきた。また、昭和薬科大学薬用植物園が行ってきたさまざまな研究にも積極的に参加し、大きな役割を果たすとともに、植物園協会誌へも報告してきた。近年では、薬用植物の栽培研究に積極的に取り組んでおり、今後のさらなる活躍が期待される。

【坂崎奨励賞】

松江 大輔 氏（箱根町立箱根湿生花園）

学芸員として、15年にわたり園内管理、展示植物の育成管理、教育普及活動を担当し、植物園としての質の向上に貢献してきた。特に、担当する年4回の企画展では、展示物の育成からイベント運営までを担い、園に欠かすことのできない企画となっている。箱根湿生花園は、1976年に箱根町により設置され、指定管理期間（2007～2021年）を経て、2022年より正式に箱根町の直営に戻った。途中、2011年の東日本大震災、2015年には箱根山火山活動の活発化、2019年からはコロナ禍と、植物園を取り巻く状況は決して穏やかなものでは無く、何度も経営の危機に見舞われたが、松江氏は、植物園としての質を向上させるため、尽力してきた。今後のさらなる活躍が期待される。

【保全・栽培技術賞】

村井 良徳 氏（国立科学博物館筑波実験植物園）

坪井 勇人 氏（白馬五竜高山植物園）

尾関 雅章 氏（長野県環境保全研究所）

高山植物の栽培技術開発に積極的に取り組み、絶滅危惧種であるキタダケヨモギ、チシマツメクサ、ハイツメクサなどの増殖法について、植物園協会誌に報告してきた。

- ・高山植物の栽培技術の開発：挿し芽による絶滅危惧種ハイツメクサ（ナデシコ科）の増殖例（日本植物園協会誌58：100-102に発表）
- ・白馬岳の絶滅危惧種の域外保全 一種子による栽培から開花・結実まで（日本植物園協会誌57：60-65に発表）
- ・高山植物栽培の技術開発：挿し芽による絶滅危惧種キタダケヨモギとチシマツメクサの増殖例（日本植物園協会誌57：101-102に発表）

【特別賞】

NHK「らんまん」制作チーム

NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」は、牧野富太郎の生涯を題材にして制作されたものであるが、その放送を通じて、植物学者や植物、植物園に関するさまざまな情報や感動を視聴者の心の中にもたらした。また、全国各地で開催された関連イベントの開催なども相まって、人々が植物や植物園への関心を大きく膨らませ、植物園の存在や役割に注目することとなった。この大きなうねりは植物園及び植物園協会の事業の推進に大きく貢献した。

(6) 教育普及活動

①第8回教育普及ワークショップ

日時：令和7年2月3日～4日

会場：京都府立植物園

参加者：19施設26名

テーマ「教育活動を評価する」

ワークショップ1「改善したい教育プログラムの共有」

講義「環境教育プログラムの評価入門」桜井 良（立命館大学）

ワークショップ2「教育プログラムの組み立て方、評価について考える」

事例紹介及びワークショップ「来園者と一緒に楽しめる教育活動」

②オンラインで各園とつながるツアー第8弾「植物園の秋2024（ハロウィン）」を公式YouTubeチャンネルで公開した。

Ⅲ：目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【協力】

①独立行政法人国立科学博物館

企画展「高山植物～高嶺の花たちの多様性と生命のつながり～」

【後援】

①WOTZ2024 実行委員会

温帯地域の花木・観賞樹木に関する国際シンポジウム

②フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

令和6年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

③一般財団法人 公園財団

なつかしプロジェクト！ 緑・花文化の知識認定試験 Web （略称：緑・花試験 Web）

④京都府立植物園

100周年記念シンポジウム

⑤富山県中央植物園

第7回 サボテン・多肉植物展

⑥群馬県立自然史博物館

「ツツジとその仲間たち ―華麗にして奇妙な一族の話」

⑦公益財団法人日本補助犬協会

第12回 もっと知って補助犬キャンペーン

2. ホームページ活用及び広報活動

ホームページのリニューアル作業を実施した。

ホームページ URL <https://jabg.or.jp/>

3. 諸会議

1. 第59回定時総会

日時 令和6年5月24日（金） 15:20～16:20

会場 水戸市民会館（水戸市）

2. 役員会・委員会等

【理事会】

- 第1回通常理事会 令和6年7月11日（オンライン）
- 第2回通常理事会 令和7年3月6日（オンライン）
- 第1回臨時理事会 令和6年4月25日（決議省略）
- 第2回臨時理事会 令和6年5月25日（水戸市民会館 代表理事等の互選）
- 第3回臨時理事会 令和6年6月3日（決議省略）
- 第4回臨時理事会 令和6年11月5日（決議省略）
- 第5回臨時理事会 令和6年12月6日（オンライン）
- 第6回臨時理事会 令和7年1月29日（決議省略）

【執行役員会】

令和7年2月18日（オンライン）

【監査】

令和6年4月15日 栗山茂監事による令和5年度事業についての監査実施

【委員会】

- ・研究発表委員会（8月7日オンライン会議、メール会議）
- ・植物多様性保全委員会（4月18日オンライン会議、メール会議）
 - 外来種対策分科会（メール会議）
 - 環境省連携事業分科会（6月12日オンライン会議）
 - 植物多様性保全拠点ネットワーク分科会（10月23日、12月26日オンライン会議）
 - 絶滅危惧植物保有状況調査分科会（5月8日オンライン会議）
- ・植物情報システム委員会（4月22日オンライン会議）
- ・ナショナルコレクション委員会（8月23日、2月24日オンライン会議）
- ・国際交流推進委員会（メール会議）
- ・ホームページ委員会（事務局にて打合せ、メール会議）
- ・協会表彰候補者選考委員会（メール会議）
- ・植物園シンポジウム委員会（シンポジウム開催準備メール会議、オンライン会議）
- ・教育普及委員会（2月4日京都府立植物園）

4. その他

- ・公益社団法人園芸文化協会 令和6年度園芸文化賞・表彰式祝辞（西川会長）
- ・京都府立植物園100周年記念行事出席（西川会長）
- ・日本高山植物保護協会「設立35周年 NPO 法人20周年記念シンポジウム」講演（遊川副会長）

令和6年度事業報告 附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。